

< 参 考 >

愛知県水田活用新作物研究会の取組概要

1 多収量米の現地栽培試験

(1) 内容

多収性の水稲2品種を用い、県内2地域で現地における栽培特性及び収量等の試験を実施。

(2) 場所・面積・栽培品種

場 所	面 積	栽 培 品 種
西 尾 市	35アール	タカナリ(加工米用多収性品種・非主食用)
弥 富 市	27アール	ハバタキ(加工米用多収性品種・非主食用)

(3) 試験結果概要

場 所	試験栽培品種 (比較した品種)	10アール当たり 収量	各地域で最も普及している コシヒカリの収量との比較	} 約2割増の収量	
西 尾 市	タカナリ	780kg	116.9%		} 約2割増の収量
	(コシヒカリ)	667kg			
弥 富 市	ハバタキ	619kg	118.6%		
	(コシヒカリ)	522kg			

2 米からのバイオエタノール製造試験

(1) 内容

現地栽培試験で収穫した米のうち、15kgを使用してバイオエタノールを製造し、エタノール製造量等の調査を実施。

また、このバイオエタノールを使用してE3を製造し、公用車による走行試験を実施。

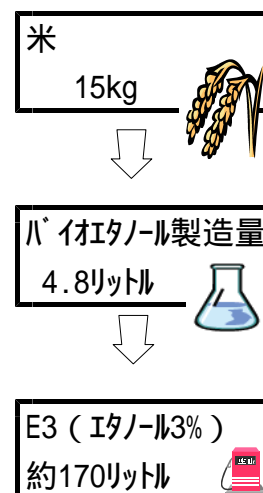
(2) バイオエタノール及びE3の製造計画

- ・バイオエタノール製造量：4.8リットル
- ・E3製造量：約170リットル

(3) 試験結果概要

精米1kgから製造されるエタノール量は、2品種平均で0.32リットル/kg(タカナリで0.33リットル/kg、ハバタキで0.31リットル/kg)であった。

今回の米からのエタノール生産コストについて、県内の稲作農家(経営規模30ha)が生産した場合を想定して試算すると、1リットルあたり553円(ガソリン税込み)であり、ガソリンの平均卸価格126円(平成19年8-10月平均)の約4.4倍であった。



3 報告書作成

試験結果の詳細については、平成20年3月に報告書として取りまとめ、公表します。